

## 日常空間に組み込んだ Human Computation 環境の実現

品川 有輝

近年, 計算機では処理が困難な問題を人間の知を利用して処理する **Human Computation** が注目を集めている. **Human Computation** の例として, 画像のタグ付けタスクがある. 動物の写真を見せ, これが猫であるか否かを判定させるようなタスクは, 計算機では処理が難しいが人であれば非常に簡単に処理できる. このようなタスクは, **PC** やタブレット, スマートフォンなどのデバイス上に表示し, 処理されることが一般的である. しかし, これらのデバイス上からタスクを処理する人間 (ワーカ) は限られており, 安定して多量にタスクを処理することは必ずしも容易ではない.

本論文では, さらなるワーカの獲得を目指し, 日常空間の中に **Human Computation** を行うための環境を構築することを提案する. 具体的には, 廊下などのある程度安定した人通りがある場所に, 比較的短時間で処理できるタスク (マイクロタスク) を床にプロジェクタを用いて投影し, 歩行者 (ワーカ) がその上を歩くことでマイクロタスクを処理できるシステムを実装した.

また, 提案システムで行ったマイクロタスクの処理結果と, **PC** やタブレット, スマートフォンなどのデバイス上で行ったマイクロタスクの処理結果との比較実験を行った. これらにより, 日常空間における **Human Computation** を行う環境の実現に関する知見を得た.

(指導教員 森嶋 厚行)